

項 目		質 問 内 容		児 童		保 護 者		CS		教 員		数値の見方	
学校経営	学校生活の充実感	【児童】	学校の生活が楽しい。	91.1%		76.2%						肯定率	
		【保護者】	子どもは、学校生活を楽しんでいる	69.1%	22.0%	40.2%	36.0%					5の割利	4の割合
	地域とともにある学校	【保護者】	学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している			54.5%		90.0%		84.4%			
		【C S】	学校は、全ての子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している			19.0%	35.4%	40.0%	50.0%	6.3%	78.1%		
	小中一貫教育	【保護者】	連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている			28.0%				59.4%			
【教員】		連携する小・中学校による小中一貫教育（各教科等において、義務教育9年間を見据えた一貫性のある学習指導計画の作成、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている	9.0%			19.0%	12.5%			46.9%			
保幼小連携	【保護者】	学校は、児童と幼児の交流、保護者への理解啓発等、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を意識した取組を積極的に行っている			49.2%				75.0%				
	【教員】	幼保小連携の必要性について全職員の共通理解を図るなど、学校全体で幼保小連携の取組が積極的に進められている			13.8%	35.4%			37.5%	37.5%			
チームとしての学校	【C S】	学校では、授業や行事、学校生活の内容や進め方について、子どもたちが、学びや生活の主体であることを実感しながら、自分たちで考えたり教職員（学校関係者を含む）と話し合ったりしている					90.0%		75.0%				
	【教員】	授業や行事、学校生活全般において、その内容や進め方を、児童・生徒が自らを学びの主体であると実感しながら、自分たちで考えたり教職員及び学校関係者と話し合ったりできるようにしている					30.0%	60.0%	28.1%	46.9%			
施設・設備	ICTの選択的活用	【保護者】	子どもは、児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している			43.9%		90.0%		78.1%			
		【C S】	児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちによって、その時々での学びや生活の必要に応じ、選択的に活用されている			22.2%	21.7%	40.0%	50.0%	25.0%	53.1%		
学びと成長	学びの環境	【保護者】	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている			42.3%		60.0%		68.8%			
		【C S】	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている			10.1%	32.3%	10.0%	50.0%	15.6%	53.1%		
学びと成長	本物の学び	【保護者】	子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできることが増えている			70.9%		80.0%					
		【C S】	子どもたちは、学ぶ楽しさを実感しながら、問いや課題を自分なりに立て、自分なりの方法で解決したり探究したりする力が育っている			30.7%	40.2%	10.0%	70.0%				
	人権教育	【保護者】	子どもは、学校で人権に関する多様な価値観について学んでいる	91.4%		54.5%		60.0%					
		【C S】	子どもたちは、違いを認め合って共に生きる大切さを実感しながら、それぞれの得意を生かしたり、苦手を補い合ったりする力が育っている	56.3%	35.1%	18.0%	36.5%	0.0%	60.0%				
	探求の学び	【児童】	新しいことを学んで身に付けようとするとき、自分で計画を立てて学習を進めることができる。	79.8%						68.8%			
		【教員】	授業では、児童・生徒が、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学べるようにしている	36.9%	42.9%					6.3%	62.5%		
個別の学び	【児童】	授業中、分からないことがあれば、先生が自分に合わせて教えてくれる。	74.0%						87.5%				
	【教員】	授業では、児童・生徒一人ひとりの学びに合わせて、「わからない」を解決するための指導・支援をしている	36.0%	38.0%					25.0%	62.5%			
自由進度の学び	【児童】	授業では、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる。	88.3%						68.8%				
	【教員】	授業では、児童・生徒が、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学べるようにしている	54.6%	33.7%					6.3%	62.5%			
民主的な学校生活	【保護者】	子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている	78.3%		73.0%				71.9%				
	【児童】	いまの学校のみならず、協力して、全員が通うことが楽しくなる学校をつくれると思う。	47.4%	30.9%	32.3%	40.7%			18.8%	53.1%			
				回収率	93.0%	30.1%	100%	100%					

「学校経営」

○「学校生活の充実」について、年度末まで校庭がなく、環境面での不便さがあるものの、高い肯定率となりました。○「地域と共にある学校」について、学校支援本部やコーディネーターとの連携のもと、地域人材を活用した授業を意図的に進め、CSや教員の肯定率は高くなりました。○「小中一貫教育」「保幼小連携」については、保護者と教員で肯定率に大きな差が見られます。該当する学年のお便りに限らず、学校だより、ホームページ、保護者会等において広く取り組み内容を紹介してまいります。○「チームとしての学校」について、チーム担任制3年目となり、学年団として学習や生活、行事の取組に当たることも定着してきました。肯定率も上がっています。

「施設・設備」

○「ICTの選択的活用」については、保護者・CS・教員で肯定率に違いが見られます。毎日の学習では1人1台専用タブレットを始めとしたICT機器を使い、子供たちが自分に合った課題設定や課題解決を選択する機会を設けています。今後とも積極的に活用していきます。○「学びの環境」については、昨年度より肯定率は上がっているものの、依然として低い値となっています。完成した校庭の環境をいかし、学習や生活、行事の中で実りある学びにつなげてまいります。

「学びと成長」

○「探求の学び」「自由進度の学び」については、教員以上に児童の肯定率が高い傾向にあります。自らの立てた課題を自分のペースで進める学習展開を今後とも続けていきます。○「個別の学び」については、教員よりも児童の肯定率が低い傾向が見られます。個に応じた学習展開を意図的に行っているものの、児童の認識とは差があるようです。今後の教材研究をして活かしていきます。○「人権教育」については、学校生活のすべての基本ともなる項目です。児童が今度とも人権意識を高くもてるよう、人権教育を充実させていきます。